

第4学年1組 外国語活動学習指導案

令和3年9月28日（火）5校時

男子14名 女子13名 計27名

指導者 HRT：勝井 大輔

1 単元名 **Unit5 Do you have a pen?** 「おすすめの文房具セットをつくろう」

2 単元の目標

- 文房具などの学校で使う物や、持ち物を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

【知識及び技能】

- 文房具など学校で使う物について、尋ねたり答えたりして伝え合う。

【思考力・判断力・表現力等】

- 相手に配慮しながら、文房具など学校で使う物について伝え合おうとする。

【学びに向かう力・人間性等】

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、日ごろから、自分の持っているものと友達のそれを比べたり、同じものをそろえて持ったりなど、児童の興味・関心の高い文房具を扱う。児童が、実際によく使っている文房具を英語でどう言うのかを知ること、英語をより身近に感じることができる単元である。また、「**Do you have ~?**」の新出表現を用いて、相手の持ち物を尋ねたり答えたりするやり取りを行うことで、学習指導要領2(2)イ「身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問したり質問に答えたりすること」ができるようにする単元である。

また、お互いに持っている文房具を伝え合ったり、外国の児童が学校に持って行く物を見たりすることで、学習指導要領2(1)ア「言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ること」及び学習指導要領2(1)イ(イ)「日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考えがあることに気付くこと」もできる単元構成となっている。

(2) 児童観

本単元に関わる児童の実態は、以下のとおりである。

質問	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない																
①英語は好きですか。	12	12	3	0																
②英語は得意ですか。	2	9	14	2																
③英語は大切ですか。	21	4	0	2																
英語の授業では、どのような活動が好きですか。(複数回答可)	<table style="margin-left: auto; margin-right: auto; border: none;"> <tr><td>歌・チャンツ</td><td>11 (40.7%)</td></tr> <tr><td>ゲーム</td><td>20 (74.1%)</td></tr> <tr><td>会話(インタビューなど)</td><td>15 (55.6%)</td></tr> <tr><td>英語を聞く</td><td>12 (44.4%)</td></tr> <tr><td>動画を見る</td><td>18 (66.7%)</td></tr> <tr><td>発音の練習</td><td>9 (33.3%)</td></tr> <tr><td>書く</td><td>5 (18.5%)</td></tr> <tr><td>読む</td><td>4 (14.8%)</td></tr> </table>				歌・チャンツ	11 (40.7%)	ゲーム	20 (74.1%)	会話(インタビューなど)	15 (55.6%)	英語を聞く	12 (44.4%)	動画を見る	18 (66.7%)	発音の練習	9 (33.3%)	書く	5 (18.5%)	読む	4 (14.8%)
歌・チャンツ	11 (40.7%)																			
ゲーム	20 (74.1%)																			
会話(インタビューなど)	15 (55.6%)																			
英語を聞く	12 (44.4%)																			
動画を見る	18 (66.7%)																			
発音の練習	9 (33.3%)																			
書く	5 (18.5%)																			
読む	4 (14.8%)																			

<p>英語の授業では、どのような活動が苦手ですか。(複数回答可)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>活動</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歌・チャンツ</td> <td>10</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>ゲーム</td> <td>2</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>会話 (インタビューなど)</td> <td>6</td> <td>24%</td> </tr> <tr> <td>英語を聞く</td> <td>5</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>動画を見る</td> <td>4</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>発音の練習</td> <td>13</td> <td>52%</td> </tr> <tr> <td>書く</td> <td>10</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>読む</td> <td>10</td> <td>40%</td> </tr> </tbody> </table>	活動	人数	割合	歌・チャンツ	10	40%	ゲーム	2	8%	会話 (インタビューなど)	6	24%	英語を聞く	5	20%	動画を見る	4	16%	発音の練習	13	52%	書く	10	40%	読む	10	40%
活動	人数	割合																										
歌・チャンツ	10	40%																										
ゲーム	2	8%																										
会話 (インタビューなど)	6	24%																										
英語を聞く	5	20%																										
動画を見る	4	16%																										
発音の練習	13	52%																										
書く	10	40%																										
読む	10	40%																										
<p>なぜ、英語を勉強するのか、あなたが思う理由を書いてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人生で使うから。・大人になって外国人と会ったときにたくさん喋れるから。 ・大人でも英語を話せるようになりたいから。 ・世界で大切だから。 ・生活に使うから。 ・他の国に行くとき必要だから。 ・大人になったら外国に行くから。 ・将来に役立つから。 ・普通に友達と英語で話すのも好きだから。 など 																											

以上の結果から、多くの児童が、英語が好きであると感じている。さらに、英語を用いたゲームだけでなく、動画を見て外国の様子を知ることやインタビューなど英語を用いて話す活動も好きな児童が多い。英語を用いて人と交流することに楽しみを感じていることがわかる。

一方で、自信をもって英語が得意だと答えられる児童は少なく、英語で表現することに自信がもてずにいる児童も少なからずいることがわかる。個人での交流は好きでも、全体の場で表現することには苦手意識があるようである。本単元でも、自分の思いや考えを英語で表現することに消極的になることが予想される。

本単元で学習する「自分の持ち物を伝える」という学習では、これまでの既習事項に加え、新出の語句や表現に慣れ親しむ活動を十分に行い、自分の表現に自信をもたせることで、児童が意欲的に活動できるものとする。

(3) 指導観

指導にあたっては、単元終末の言語活動として、時間割に合う文房具セットを作って発表するという活動を設定する。「明日はこの学習があるからこの文房具が必要だ」という、児童にとって身近な場面を設定し、「しかし文房具が足りない」という状況から、「**Do you have** ～？」の表現を用いてやりとりするという目的を明確化する。さらに、作った文房具セットを「**I have** ～。」の表現を用いて紹介することで、なぜそのような文房具セットを作ったのか、自分の考えを伝え合うことができる考えた。

以上のゴールを目指し、1時では活動のゴールを掴ませ、文房具の言い方に会わせ。2時、3時では持ち物を尋ねる表現に十分に慣れ親しませ、単元のゴールにつなげる。

本時の学習では、単元を通して十分に慣れ親しませる「**Do you have** ～？」の表現を用いて尋ねながら、必要なものを集めて回るやり取りをする。自分に必要な物が何かを考え、学習活動を進めていくことで、児童が目的意識をもって学習に取り組むことができると確信する。

4 取り扱う表現・語彙 (言語材料)

[表現] **Do you have (a pen)? / Yes, I do. / No, I don't. /**

I [have / don't have] (a pen). / This is for you.

[語彙] **have**, 身の回りの物 (**glue stick , scissors , pen , magnet , marker , pencil sharpener , pencil case , stapler , desk , chair , clock , calendar**)

[既出] **What's this? / It's (a pen). / (The "A" card) ,please. / How many (apples)? / Ten (apples).**
数 (1～60)、身の回りの物(**pencil , eraser , ruler , crayon**)

5 単元計画 本時4 / 4

時	目標と主な活動
1	○ 単元のゴールを知り、文房具の言い方を知る。 ・文ぼう具の言い方を知ろう。
2	○ 持ち物を尋ねたり答えたりする表現を知る。 ・持ち物を伝え合う言い方を知ろう。
3	○ 持ち物を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・友達と持ち物を伝え合おう。
4 本時	○ 文房具などの持ち物を尋ねたり答えたりする活動を通して、必要な文房具セットを作り、伝え合う。 ・持ち物をたずね合い、必要な文ぼう具セットを作ろう。

※単元のゴール…必要な文房具セットを作ろう。

6 本時の学習 (4 / 4)

(1) 目標

- 文房具などの持ち物を尋ねたり答えたりする活動を通して、必要な文房具セットを作り、伝え合う。
[思考力・判断力・表現力等]

(2) 授業の視点

- **Activity①**では、足りない文房具を友達が持っているか尋ねに行き文房具セットを作る活動を、**Activity②**では、作ったセットを発表する活動をすることで、やり取りの活動から発表の活動へと展開し、児童は相手を意識してコミュニケーションをとることができたかを検証する。

(3) 展開

過程 時間	児童の学習活動	教師のかかわり・指導上の留意点	備考
		HRT	
Warm up ⑦ /	1 Greeting ○あいさつをする。 気分、天気、曜日、日付を答える。	○以下のことについて、児童とあいさつを交わす。 ・ Hello. How are you? ・ How's the weather? ・ What day is it? ・ What's the date?	
	2 Warming up ○Let's chant をする。	○役割を分けた chant をすることで、コミュニケーションへの意欲を高める。	
	3 Today's goal ○本時の課題をつかむ。	○教師のデモンストレーションにより単元のゴールを確認し、本時の課題を児童につかませる。	
	Today's Goal ひつような文ぼう具セットを作り、伝え合おう。		
	4 Practice ○必要な表現の練習をする。 ・ Do you have ○○? →Yes, I do. / No, I don't.	○前時までに学習した語句や表現を確認しながら、繰り返し発音させる。	

Main act 1 ⑭	<p>5 Activity①</p> <p>○お店役と買う役に分かれ、買う役の子童は自分に必要な文房具を考えて、持っているか尋ねに行き、必要な文房具カードを集める。その後、役を交代する。</p> <p>○Clear Voice と Reaction を意識して活動する。</p>	<p>○Volunteer の児童とともにデモンストレーションを行い、児童に見通しをもたせる。</p> <p>T : Do you have 文房具? S : No, I don't. T : Do you have 文房具? S : Yes, I do. T : 文房具, please. S : Here you are. T : Thank you. S : You're welcome.</p>	【評価】
	<p>6 Activity②</p> <p>○グループになり、自分が作った文房具セットとそのセットを作った理由を紹介する。</p> <p>○Clear Voice と Reaction を意識して活動する。</p> <p>○数名の児童が前で発表する。</p>	<p>○活動中は机間指導で助言する。</p> <p>○初めに教師がデモンストレーションを行い、発表の流れのイメージをもたせる。</p> <p>①This is my set. ②I have a pencil, I have an eraser, I have a glue stick, I have a ruler, ... ③算数があるので、定規が必要だと思って入れました。</p> <p>○新出の「I have ~.」の表現を確認と練習をし、活動に入る。</p> <p>○活動中は机間指導で助言する。</p> <p>○十分にグループでの活動を行い、発表の仕方に慣れてきたころに、数名の児童に前で発表をさせる。</p> <p>○コミュニケーションの良いところを称賛する。</p>	
Main act 2 ⑮	<p>7 Looking back</p> <p>○本時の学習の振り返りをする。</p>	<p>○振り返りシートに書かせ、発表させる。</p>	【評価】
Looking back ⑯	<p>8 Good-bye</p> <p>○終わりのあいさつをする。 That's all. Let's finish. See you next time.</p>	<p>○児童の頑張りを称賛し、本時の授業の終わりを果たえる。 ○一緒にあいさつをする。</p>	【評価】

(4) 評価

文房具などの持ち物を尋ねたり答えたりする活動を通して、必要な文房具セットを作り、伝え合うことができたかを、**Activity** での様子や振り返りシートで評価する。〔思考力・判断力・表現力等〕

(5) 板書計画

<p>☀ Tuesday</p>		
<p>Today's Goal</p> <p>友達と持ち物をたずね合い、ひつような文房具セットを作ろう。</p>	<p>Demonstration 用 時間割</p>	<p>Points</p> <p>Clear voice</p> <p>Reaction</p>
<p>Picture cards</p>	<p>Demonstration 用 文房具セット</p>	

7 授業考察

(1) 授業の視点

- **Activity①**では、足りない文房具を友達が持っているか尋ねに行き文房具セットを作る活動を、**Activity②**では、作ったセットを発表する活動をする中で、やり取りの活動から発表の活動へと展開し、児童は相手を意識してコミュニケーションをとることができたかを検証する。

(2) 授業研究より

【成果】

- 文房具の単語に対して「必要感」を感じられる場面・状況であった。
- 子どもたちと一緒にデモンストレーションをしたことで、英語を使う雰囲気作りができていた。
- 文房具セットや時間割は、列ごとにそれぞれ別々のものを用意していたことで、自分に必要なものを考えることができていた。
- **Practice** が十分だったため、**Activity①**に自信をもって取り組んでいた。
- ”a ～～”や”two ～～”など、特別に教えずとも、デモンストレーションややり取りの中で何度も繰り返し使っているうちに、子どもたちも自然に使えるようになっていた。

【課題】

- 必要な文房具を考える時間を、数十秒程度区切ってとってあげると、全児童が見通しをもって取り組むことができたのでは。
- **Practice** が多かったことは、コミュニケーション活動に自信をもって取り組んでいた一方で、コミュニケーションの中での思考をはたらかせる場面はなかった。”○○,please.”と言われたときに”Why?”と返して理由を懸命に表現するような、思考を必要とする場面を設定することをめざしたい。
- グループ内での発表では、声が小さいグループもあった。成果物にオリジナリティーをもっと出させ、発表に対する意欲付けをすることが課題である。

(3) 今後の課題

- どこまで **Practice** が必要か。教えずぎ・与えずぎでは思考に繋がらない。
- コミュニケーション活動の中にも思考が必要な場面を仕組み、児童が思考力を働かせることができるようにする。
- 発表し合う場面において、いかにして「発表したい」「発表を聞きたい」という思いにさせるか。いかにしてそれぞれの成果物にオリジナリティーを出させるか。

